

# 電気けいれん療法 (ECT)

をご希望の患者さまとご家族さまへ

Q & A

## Q 電気けいれん療法 (ECT) とはどんな治療法ですか？

電気けいれん療法 (ECT) は、頭皮の上から短時間の電気刺激を与え、脳の機能を回復させようとする治療法です。さまざまな病状の改善が期待できます。

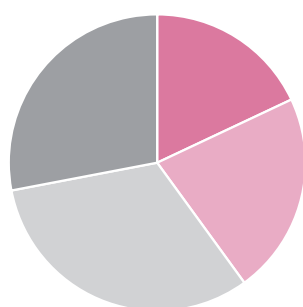
治療は全身麻酔をかけておこないます (麻酔薬は点滴で投与します)。

治療中は眠った状態なので、痛みなどの苦痛は感じません。また、電気の刺激でからだにけいれんが起きないようにするために、筋弛緩薬も併用します。

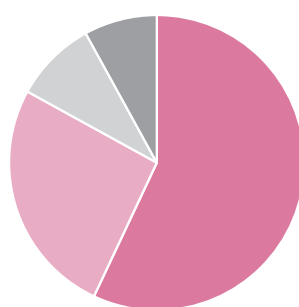
病気によっては、薬物療法や心理療法に比べて有効性が高いこと、効果が速く現れることが特徴です。

たとえば、このような精神症状や身体症状を改善します。

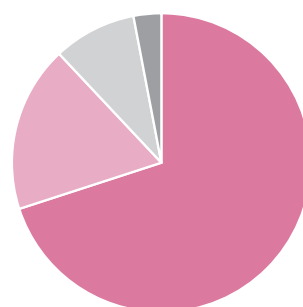
緊張病症候群 (カタトニア)	緊張 (からだのこわばり)、混乱など
うつ病	抑うつ気分、意欲減退、希死念慮など
双極性障害	躁状態での気分高揚、易怒性、攻撃性など ※抑うつ状態では、うつ病と同じ
統合失調症	幻聴、被害妄想、興奮、混乱など
パーキンソン病	随伴する重症のうつ症状
慢性疼痛	痛み



統合失調症



うつ病



双極性うつ病

■ 著明改善  
■ 中等度改善  
■ 軽度改善  
■ 不変

※症状によっては改善が不十分だったり、改善しない場合もあります。

## Q ECT はどのような人に適した治療法ですか？

---

以下のような方におすすめしています。

- ★自殺の危険や身体的な衰弱があり、早急な改善を要する方
- ★薬剤の副作用のために十分な薬物療法ができない方
- ★十分な薬物療法をおこなっても改善が得られない方
- ★昏迷状態（極度に混乱や緊張が強い状態）など症状が重症で、早急な改善を要する方
- ★これまでに ECT が有効であった方
- ★その他（\_\_\_\_\_）

## Q ECT 以外にも治療法はありますか？

---

薬物療法や心理療法が挙げられます。

ほとんどの患者さんは最初に薬物療法をおこないます。そこで改善しなかったり、副作用で十分おこなえなかったりする場合に、ECT 治療をご提案しています。

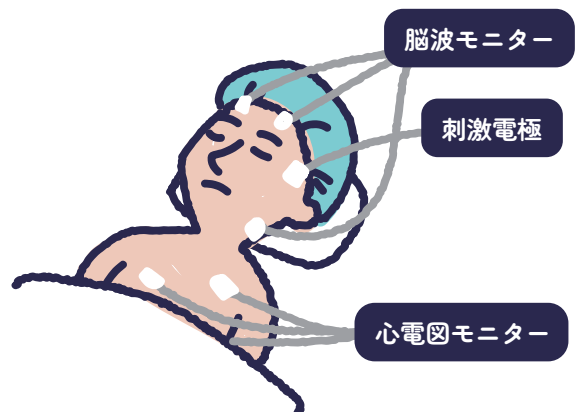
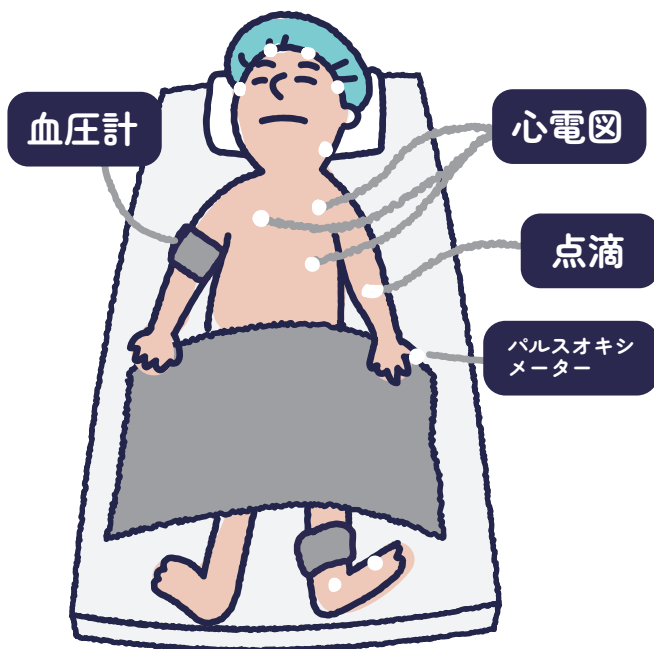
また、心理療法は精神症状が重い場合にはおこなえませんし、改善には一般的に長時間を要します。



## Q ECT の治療の手順について教えてください。

ECT は次の手順でおこなわれます。

- ① 病室で点滴をします。
- ② ECT 治療室に移動します。
- ③ 血圧・心電図などのモニターを貼ります。
- ④ 電極シールをつけます。
- ⑤ 酸素を吸入します。
- ⑥ 麻酔薬を点滴注射します。
- ⑦ 眠りに入ります。
- ⑧ 筋弛緩薬を注射します。
- ⑨ 電極から数秒程度電気を流します。
- ⑩ 徐々に麻酔から覚めます。
- ⑪ 意識・血圧などを確認して、病室に戻ります。



麻酔導入のようす

## Q 治療はどんなスケジュールでおこなわれますか？

---

治療コースは週2～3回、合計6～12回おこないます。

経過によっては15回以上おこないます。

症状の程度によりますが、3回目以降で良いきざしがみえてきます。6回目以降で自覚できる改善がみられます。

1回の治療コースで3～4週間はかかります。

## Q ECTを受けたあとの治療はどうなりますか？

---

症状の改善後もなんらかの継続的治療が必要です。

### 薬物療法

通常おこないます。

### 心理療法

これのみでは通常困難ですので、他の治療法と併せておこないます。

### メンテナンス ECT

薬物療法ですぐ再発する場合などに検討します。1か月間隔などで定期的におこないます。短期間の入院でおこなうことが多く、半年～1年程度継続します。

## Q ECT に対する同意は撤回できますか？

---

ECT に対する同意は強制されず、いつでも撤回できます。

ECT に対する同意はあなたの意思にお任せします。

★治療への同意は強制されることはありません。

★いつでも治療の中止を希望することができます。

★ECT 中止後も、診療上不利になることはありません。

あなたが病状により自分の意思をきちんと伝えられない場合には、あなたのご家族など代理の方に同意していただくこともあります。

## Q ECTは安全ですか？副作用はありませんか？

ECT 自体による事故はまれです。死亡事故は1万人に1人、8万回の治療に1回程度で、出産による死亡率より低く、ほとんどが身体合併症や麻酔に関連した事故です。

安全に治療をおこなうため、ECT 実施前には 血液検査・胸部と腹部レントゲン・頭部CT・心電図などの身体的な検査をおこないます。

服用中のおくすりは中止または変更する場合があります。

たとえば、このような副作用があります。

脳への電氣的刺激の直後に起こるもの	
頻脈・血圧上昇	ほとんど全例にありますが、3～5分で消失します。
不整脈	まれにあります。心電図を見ながら適切に対応します。
麻酔から覚めたあとに起こるもの	
物忘れ	もっともよくみられ、通常治療終了後4週間程度で回復します。数カ月～数年続くこともあります。
頭痛・筋肉痛	軽いものが多く、鎮痛薬などで改善します。
興奮や混乱	ときどきあり、通常1時間以内に改善します。

